

る」

市町村保健師が担っている高齢者保健福祉活動は多岐にわたるため、それらすべてを評価することは困難です。そこで、本評価指標では、市町村保健師の果たす役割が特に重要と考えられる高齢者保健福祉活動として、「介護予防事業」と「地域包括ケア」の2つに関わる項目を重点的に取り上げました。

「介護予防事業」は、元気な高齢者やまだ要介護認定を受けていないが虚弱傾向にありそのリスクがある方を対象に、現在の状況を改善する或はできるだけ維持できるよう、閉じこもりを予防し、できるだけ長く生きがいを持ち地域で自立した生活を送ることができるようにすることを支援する活動で、多くの市町村保健師が中心となって取り組んでいます。

「地域包括ケア」は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進されており、地域包括ケアの実現に向けた中核的な機関として、各市町村に地域包括支援センターが設置されています。

地域包括支援センターは、委託により活動を展開している市町村もあり、また、「地域包括ケア」の推進は、他の職種の方が中心となってかかわっているという市町村もあります。そのため、市町村保健師が「地域包括ケア」の推進に直接的にかかわる機会が少ないという自治体もあります。

しかし、高齢者ができる限り長く地域社会で生活が続けられるよう、地域住民の健康課題を把握し、課題解決のために地域全体を組織的に動かすことが責務とされている市町村保健師にとって、地域で暮らしている高齢者と直接的なかかわりを持つことは少なくとも、幅広い関係機関や住民との連携・協働のもと高齢者の健康課題を把握し、それぞれの役割を確認しあい高齢者の支援体制を強化していく役割はあると思われます。

そのため、本評価指標では、市町村保健師が住民に対して行う直接的援助だけでなく、地域の高齢者の実態と課題を把握して関係者と共有したり、関係者の資質の向上や支援を行ったりする活動についても評価することを意図しています。

評価に当たっては、一つの項目のなかで、できていることとできていないことが混在する場合もありますが、各項目のなかで実現可能な改善点（今後の課題）について明記していただき、全項目について評価した後に優先順位を検討し、今後の活動に役立てていただきたいと考えています。

IV. 各評価指標の評価の視点・方法・根拠等

I) 高齢者が元気で暮らし、なんらかの支援が必要な状態になっても安心して暮らせる

(I) 構造

1. 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が配置されている

【評価の意図】

○高齢者保健福祉活動を行うための基盤として、市町村保健師の業務の位置づけと必要人員を明

確にする。

【評価の視点・方法】

- 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が配属されている部署や、地域包括支援センターや介護予防事業の実施方法については自治体によって異なっているが、保健師が高齢者保健福祉活動に携わる必要性から、職場の事務分担のなかで保健師が効果的に高齢者保健福祉活動を担当できるよう配置されているかという視点で検討する。
 - ・上司や関係者等に対し、市町村保健師が効果的に高齢者保健福祉活動を推進できるよう配置することへの理解と協力を得るための根拠を明確にする。
 - ・市町村保健師の業務としての高齢者保健福祉活動をどの部署でどこまで行うか、活動範囲や位置づけについて明確化する。
 - ・自治体によっては、介護認定部署や介護給付の部署に別れて保健師が配置されているところがある。それぞれの部署で保健師が担っている役割の確認と、適正配置かどうかを明確にする。

【評価の根拠】

- 高齢者保健福祉活動を効果的に推進するために必要と思われる保健師数と配置状況

2. 保健師と協働して高齢者保健福祉活動を実践する他の専門職が配置されてい

【評価の意図】

- 高齢者保健福祉活動を行う基盤として、市町村における人材の必要性と配置状況を明確にする。

【評価の視点・方法】

- 保健師が他の専門職と協働して高齢者保健福祉活動を行える体制になっているかどうかという視点で検討する。
 - ・どのような専門職（社会福祉士、介護支援専門員、栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、健康運動指導士）が職場内にどの程度配置されており、どのような役割を担うべきかを明確にする。
 - ・他の専門職とどのような連携を図っているのか、連携体制は十分であるかどうかを評価する。
 - ・追加配置が必要な専門職種について、その必要性と根拠を明確にする。

【評価の根拠】

- 保健師が効果的に高齢者保健福祉活動を行うために協働すべき専門職の役割と配置状況

3. 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が、他の部署との連携を図る体制があ

【評価の意図】

- 高齢者保健福祉活動を担当する質の高い保健活動を推進するために、他の部署と連携状況を明確にする。

【評価の視点・方法】

- 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が他部署の職員と連携を図ることが組織として認められ

ているか、具体的にどの部署とどのような連携が図られているのか、さらに連携を強化すべき部署はあるのかという視点で検討する。

- 自治体内に統括的な役割を担う保健師がいるかどうか、その保健師が自治体内の保健師間の連携についてどのような役割を担っているかという視点で検討する。
- 他の部署との連携について、職場内で公式に認められているか、どのような場合に認められるのか、連携が取れる保健師は全員なのか、という視点で検討する。
- 他の部署との連携について、職場内で公式に認められていない場合、個別に取り組んでいることがあるかどうかという視点で検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が連携をとっている部署と連携状況
 - ・保健所等の他機関との連絡会議等の実施状況（頻度、内容）
 - ・所内での連絡会議等の実施状況（頻度、内容）
 - ・経験別（初級、中堅、管理職）の連携状況（頻度、内容）
 - ・テーマ別の連携状況（頻度、内容）
 - ・個別の連携状況（頻度、内容）

4. 地域包括支援センターを委託している場合、地域包括支援センターの活動をバックアップする体制がある（地域包括支援センターを委託している場合のみ回答）

【評価の意図】

- 地域包括支援センターを委託している場合、地域包括支援センターにどのような役割を期待しているのか、またその活動をバックアップする体制を明確にする。（地域包括支援センターを委託している場合のみ回答）

【評価の視点・方法】

- 委託した地域包括支援センターの活動の現状と課題を整理することや、より効果的な活動となるよう、委託する側にも地域包括支援センターをバックアップする役割が業務に位置づけられているかどうかという視点で検討する。
- 地域包括支援センターが複数ある場合の情報・課題の共有、地域包括支援センターによる対応の差をなくすためにどのようなことを行っているかという視点で検討する。
- 地域包括支援センターのバックアップをどのように実施しているのかという視点で検討する。

【評価の根拠】

- 地域包括支援センターに対するバックアップ状況
 - ・連絡会議等の実施状況（方法、内容）
 - ・研修等の実施状況（方法、内容）
 - ・地域包括支援センターへの情報提供内容
 - ・地域包括支援センターからの個別の相談への対応状況
 - ・職種別の会議や研修等の実施状況（方法、内容）
- 地域包括支援センターからの要望・意見への対応状況

5. 高齢者保健福祉活動に携わる保健師等の専門職が、その部署で求められている役割を發揮できるよう、研修や相談に応じる体制がある

【評価の意図】

- 高齢者保健福祉活動に携わる保健師等の専門職の教育体制を明確にする。

【評価の視点・方法】

- 高齢者保健福祉活動に携わる保健師等の経験や配置人数にかかわらず、活動に必要な専門知識や対人援助スキルが習得できるような教育体制（人材育成）が職場内にあるかどうかという視点で検討する。

【評価の根拠】

- 活動マニュアルの整備状況
 - ・担当部署で担うべき役割
 - ・専門職としての役割
- 新任職員への研修・オリエンテーションの実施状況
 - ・高齢者保健福祉部署内での研修の実施状況
 - ・市町村内での研修の実施状況
 - ・他機関で実施している研修への参加状況
- 業務上の課題について、随時、相談や検討できる体制の整備状況
- 業務上の課題について、職場内で検討する場の設定状況
- 保健師としての役割を担う際の課題について、同職種で検討する場の設定状況

6. 保健師が高齢者保健福祉活動に関する予算管理に関与している

【評価の意図】

- 高齢者保健福祉活動を担当する保健師が、高齢者保健福祉活動に関する予算・決算管理に携わる必要性を明確にする

【評価の視点・方法】

- 保健師が高齢者保健福祉活動に関する予算・決算管理にどの程度かかわっているのか、直接かかわっていない場合であっても高齢者保健福祉活動についてどのような課題があり、予算が確保されているのかなどを意識して業務を行っているかという視点で検討する。
- 新たに必要な予算の確保にむけて、他の職種に理解できるように示しているかどうかという視点で検討する。

【評価の根拠】

- 保健師の予算・決算管理へのかかわり状況
 - ・予算の必要性とその根拠の明記状況
 - ・決算の根拠となる実績の明記状況
 - ・介護予防事業や地域包括ケア全体にかかっている予算・決算についての把握状況
 - ・介護保険特別会計予算・決算額の推移についての把握状況

(Ⅱ) プロセス

7. 地域の高齢者の人口動態等の統計や介護保険対象者の実態（認定状況、サービス利用状況、事業所・施設の整備状況等）を把握している

【評価の意図】

○高齢者保健福祉活動を行うにあたり、地域の高齢者の人口動態や介護保険対象者の実態の把握状況を明確にする。

【視点・方法】

○高齢者保健福祉活動を担当する保健師として、地域の高齢者の人口動態等の統計をどう把握しているか検討する。

○地域の高齢者の人口動態等が経年的にどう変化しているのか、他の地域と比較してどうであるかなど、どの程度把握しているか検討する。

○高齢者保健福祉活動を行うにあたり、介護保険対象者の実態のどの程度把握しているかを明確にする。

○地域包括支援センターの地区毎に統計管理し、その情報を公表できるようにしているかどうかという視点で検討する。

【評価の根拠】

○地域の高齢者の人口動態等の統計の管理状況（経年的な変化、他の地域との比較）

・人口、高齢者（前期・後期）人口、高齢化率、死亡統計、認定率など

○介護保険対象者の実態の把握状況（経年的な変化、他の地域との比較）

・認定状況（年代別・性別・介護度別）、サービス利用状況、事業所・施設の整備状況など

・介護認定者の認知症の状況

○介護保険対象者の実態の把握状況

○地域包括支援センターの地区毎の統計の管理状況

○独居高齢者、高齢者世帯の登録状況

○要援護者の登録状況

○他制度の状況

・高齢者の国民健康保険への加入状況

・高齢者で身体障害者手帳を受けている者の数

・高齢者で生活保護を受けている者の数

8. 保健師が高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定・進行管理に関与している

【評価の意図】

○保健師が高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定・進行管理にどの程度関与しているか明らかにする。

【視点・方法】

- 高齢者保健福祉活動を担う保健師が、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や進行管理にどの程度関与しているかどうかという視点で評価する。つまり、保健師が携わっている高齢者保健福祉活動が計画の中でどのように位置づけられているのか、健康状態や生活の現状や課題を検討したうえで、日々の活動が展開されているかどうか検討する。
- 保健師自身が高齢者保健福祉計画の策定・進行管理に直接関与していない場合であっても、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で目指していることを意識し、保健師としてどの部分を担っているのかを整理しているのかという視点で検討する。
- 保健事業の実績等が高齢者保健福祉計画の策定・進行管理にどの程度反映されているかどうか検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に関わる会議への参加状況
- 高齢者保健福祉活動の実態調査への関与状況
- 高齢者保健福祉活動のアセスメント、分析結果、今後の方向性など的高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画への反映状況

9. 高齢者の意識（介護予防に関する意識、不安や心配事）について把握している

【評価の意図】

- 高齢者の意識（介護予防に関する意識、不安や心配事）について、どのように把握しているかを明らかにする。

【視点・方法】

- 高齢者の介護予防に関する意識をどのような方法で把握しているか検討する。
 - ・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画での実態調査結果
 - ・日常生活圏域ニーズ調査
- 高齢者の不安や心配事をどのような方法で把握しているか検討する。
- 高齢者の介護予防に関する意識の把握方法は妥当か検討する。
- 高齢者の不安や心配事に関する意識の把握方法は妥当か検討する。
- 経年的な比較を行っているか検討する。

【評価の根拠】

- 無作為抽出での実態調査の分析結果
- 介護予防事業やイベント時の調査結果

10. 特定健診や基本チェックリストの結果から、高齢者の健康状態を把握している

【評価の意図】

○高齢者の健康状態について、どのように把握しているかを明らかにする。

【視点・方法】

○特定健診や基本チェックリストの結果から、高齢者の健康状態をどのように分析しているか検討する。

○高齢者の健康状態の現状と課題について、どうとらえているか検討する。

○経年的な比較を行っているか検討する。

【評価の根拠】

○特定健診や基本チェックリストの結果から、フォローが必要となる人の割合（経年的な比較）

- ・特定健診の受診状況、分析結果
- ・基本チェックリスト実施状況、分析結果

11. 地域内の処遇困難事例の実態（件数、特徴、対応状況等）を把握している

【評価の意図】

○地域内の処遇困難事例の実態をどのように把握しているかを明らかにする。

【視点・方法】

○地域内の処遇困難事例の実態（件数、特徴、対応状況等）について、どのように把握しているか検討する。

【評価の根拠】

○処遇困難事例の実績（記録）

- ・直接相談があった件数・内容・対応状況
- ・委託先（地域包括支援センター等）に相談があった件数・内容・対応状況

12. 介護予防事業全体について、どのような対象者にどのように行うか計画を立てて実施している検討している

【評価の意図】

○介護予防事業について、どのような実施計画を立てて実施しているかを評価する。

【視点・方法】

○介護予防事業全体の年間実施計画をどのように立てて実施しているか検討する。

○介護予防の普及啓発をどのような対象者にどのように実施しているか検討する。

○通所型の介護予防事業をどのような対象者にどのように実施しているか検討する。

○電話・訪問での支援をどのような対象者にどのように実施しているか検討する。

○介護予防事業の実施状況・効果について検討する。

○介護予防事業の課題について検討する。

【評価の根拠】

○基本チェックリストの活用状況

○通所型の介護予防事業について、どのような対象者に、誰がどのような方法で実施・評価しているか検討する。

- 通所型の介護予防事業前後の意識や生活習慣の変化の確認状況を検討する。
- 訪問・電話での支援について、どのような対象者に、誰がどのような方法で実施・評価しているか検討する。
- 訪問・電話での支援前後の意識や生活習慣の変化の確認状況を検討する。
- 介護予防事業の実施する際の地域包括支援センターとどう連携状況を検討する。

13. 認知症対策について、どのような対象者にどのように行うか計画を立て実施している

【評価の意図】

- 認知症対策の実施状況について評価する

【視点・方法】

- 認知症対策（普及啓発、サポーター養成、予防、早期診断・早期対応、地域での生活を支える医療・福祉サービスの構築、地域での日常生活・家族支援の強化、若年性認知症対策の強化、医療・介護サービスを担う人材育成等）をどのような対象者にどのように実施しているか検討する。
- 認知症対策の課題についてどう評価しているか検討する。

【評価の根拠】

- 認知症に対する普及啓発の実施状況
- 認知症予防のボランティア養成状況
- 認知症の相談窓口の確保状況
- 認知症医療の提供状況の把握
- 認知症介護サービスの提供状況の把握
- 専門職向けの認知症に関する研修等の実施状況
- 若年性認知症対策の実施状況

14. 介護予防事業を企画、運営する際に、地域住民の意見を反映させている

【評価の意図】

- 介護予防事業の企画・運営に、地域住民の意見をどう反映させているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 介護予防事業の年間スケジュールを企画、運営する際に、地域住民の意見をどんな方法で確認し、事業にどのように反映させているか検討する。
- 個々の介護予防事業の実施方法・内容・評価を企画、運営する際に、地域住民の意見をどんな方法で確認し、事業にどのように反映させているか検討する。

【評価の根拠】

- 地域住民への実態調査
- 事業参加者への聞き取り・アンケート結果
- 会議等での地域住民の意見

15. 介護予防事業を行う際、終了後も健康維持に配慮した生活を継続できるように支援している

【評価の意図】

○介護予防事業の終了後も健康維持に配慮した生活を継続できるようにするために、どのような支援を行っているのかを明らかにする。

【視点・方法】

○介護予防事業終了後に引き続き介護予防につながる活動を維持できるよう、どのような支援（知識の伝達、地域での活動情報の提供など）をしているか検討する。

【評価の根拠】

○介護予防事業の実施計画（プログラム、内容、主体的な活動に向けての支援状況、配布資料等）

○介護予防事業の実施後のフォロー体制

○介護予防事業終了後の受け皿（OB会等）の育成状況

○どのような社会資源を集約し提供しているか

16. 高齢者に関する相談支援窓口や高齢者の生活に役立つ情報（介護保険制度、高齢者施策、関連施策、民間情報）を整理し、地域住民や関係機関に周知している

【評価の意図】

○高齢者に関する相談窓口を、地域住民や関係機関にどう周知しているのかを明らかにする。

○高齢者支援に必要な医療機関の情報について明確にする。

○高齢者の生活に役立つ情報（介護保険制度、高齢者施策、関連施策、民間情報）について、どのように整理しているか明らかにする。

○高齢者の生活に役立つ情報（介護保険制度、高齢者施策、関連施策、民間情報）について、地域住民や関係機関にどう周知しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

○高齢者の生活に役立つ情報（介護保険制度、高齢者施策、関連施策、民間情報）として、誰でも確認・活用できるよう整理されているかどうか、また、地域住民や関係機関にどのように周知しているか。改善点はないかどうか検討する。

○高齢者に関する相談支援窓口を、どのような方法で地域住民や関係機関に周知しているか検討する。

○高齢者支援に必要な医療機関の情報を、誰でも確認・活用できるよう整理されているかどうか検討する。

【評価の根拠】

○高齢者に関する相談窓口についての情報の集約状況

- 高齢者支援に必要な情報の把握状況と更新状況
 - ・介護保険制度、高齢者施策、関連施策、民間情報など
 - ・医療機関の情報
- 高齢者支援に必要な情報の整理状況
(ファイリング、ガイドブック、医療機関マップ、社会資源マップなど)
- 高齢者に関する相談窓口についての周知方法
 - ・広報、ホームページ、チラシ、グッズ等活用状況
 - ・介護予防事業、出前講座、イベント等での周知状況
 - ・認知症や精神関係の相談医、専門医の情報
- 高齢者に関する相談窓口についての周知先
- 高齢者支援に必要な情報の更新状況・周知方法
- 高齢者支援に必要な情報の関係機関等への周知状況

17. 介護者を支援する対策を実施している

【評価の意図】

- 介護者を支援するための対策をどのように実施しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 介護者を支援する対策を誰がどのような形で実施しているのか検討する。

【評価の根拠】

- 支援する介護者の把握方法
- 介護サービス提供者等の関係者への周知
- 介護者を支援するための対策として実施している事業
 - ・介護者のつどい、介護教室、団体支援等の実施状況
 - ・パンフレットやチラシ等の配布状況
 - ・慰労金、紙おむつ代の助成状況
- 介護者への情報提供方法

18. 高齢者を支援する地域住民と関係者のネットワークを強化するための活動（会議等）を実施している

【評価の意図】

- 高齢者を支援する地域住民と関係者のネットワークを強化するために、どのような活動（会議）を実施しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 高齢者を支援する地域住民と関係者のネットワークを強化するために、どのような関係者と会議や活動を行っているか検討する。
 - ・ネットワーク活動例（高齢者虐待ネットワーク、認知症高齢者見守りネットワーク、ふれあい

サロン、ケアマネジャーのネットワーク、医療と介護のネットワークなど)

○高齢者を支援する地域住民や関係者にどのような働きかけをしているか検討する。

【評価の根拠】

○高齢者を支援する地域住民と関係者のネットワークを強化するために実施している活動（会議）の実施状況

- ・活動や会議の回数・内容
- ・ネットワークを強化する際の連携先

19. 地域包括ケアの構築に向けて、医療、介護、福祉の連携が強化されるよう取り組んでいる

【評価の意図】

○地域包括ケアの構築に向けて、どのような関係者とともに地域の課題や今後の取り組みについて議論しているか

【視点・方法】

○地域包括ケアの構築に向けて、どのような取り組みをしているか検討する。

- ・医療との連携強化（24時間対応の在宅医療・訪問看護、リハビリテーションの充実・強化、介護職員による痰の吸引などの医療行為の実施）
- ・介護サービスの充実・強化（特養など介護拠点の緊急整備、24時間対応の定期巡回、随時対応サービス）
- ・予防の推進（介護予防事業、自立支援型の介護の推進）
- ・見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など
- ・高齢者の住まいの整備

○地域包括ケアの構築に向けて、どのような関係者どのような働きかけをしているか検討する。

- ・地域ケア会議の実施状況（支援困難事例等の問題解決、地域課題の把握、地域づくり・支援体制整備、給付適正化の事業者指導等）

○地域包括ケアの構築に向けて、誰とどのような議論・情報交換をしているか検討する。

- ・地域の課題についての検討（家族介護問題、住宅問題、低所得者対策、認知症高齢者対策の現状と課題など）
- ・他職種連携についての検討（在宅医療の現状と課題、緩和ケアの現状と課題、退院支援・退院ケアマネジメントの現状と課題、介護予防とリハビリテーションの現状と課題、医療と介護の連携など）

【評価の根拠】

○地域包括ケアの構築に向けての取り組み状況

- ・連携先、連携頻度、連携内容
- ・どのような課題を共有しているか

20. 24時間365日、高齢者の相談に応じることができるよう、関係機関と協力体制をつくっている

【評価の意図】

- 24時間365日、高齢者の相談に応じる体制をどのようにつくっているのか明らかにする。
- 24時間365日、高齢者の相談に応じる体制をつくっていない場合、代替案としてどのようなことを行っているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 夜間や休日に相談があった時にどのような対応をしているかで評価する。
- 夜間や休祭日の相談受付体制について、24時間体制をとっている施設や事業所とどのような連携を図り対応しているか評価する。
- 24時間365日、高齢者の相談に応じることができるよう、どのような関係機関にどう働きかけているか評価する。

【評価の根拠】

- 夜間や休日の相談状況（頻度・内容）
- 夜間や休日の相談への対応状況
- 夜間や休日の相談体制の課題についての集約状況
- 介護保険サービスの整備状況（訪問看護、定期巡回・随時対応型訪問介護・看護、夜間対応型訪問介護、小規模多機能型居宅介護、複合型サービスなど）

21. 相互に見守り、支えあう地域となるよう、民生委員や自治会などと連携を図っている

【評価の意図】

- 相互に見守り、支えあう地域となるよう、どのような方達とどのような連携を図っているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 相互に見守り支えあう地域となるよう、民生委員や自治会などの地域の関係者との連携状況について検討する。
- 見守りやサロンなどの担い手となる人材発掘・育成に向けての現状と課題について検討する。
- 民生委員や自治会などの地域の関係者との連携における改善点はないかどうか検討する。
- 相互に見守り支えあう地域となるよう、地域包括支援センターはどのような活動をしているか検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者支援を担当している市の職員と、民生委員や自治会などとの連携状況
- 高齢者の見守りやサロンなどの担い手と民生委員や自治会などとの連携状況
- 地域包括支援センターの職員と、民生委員や自治会などとの連携状況

22. 必要時、介護保険事業所や関係部署（生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等）、地域内の協力者（自治会や民生委員等）等と連携して支援している

【評価の意図】

- 介護保険事業所などの関係者との連携状況を明らかにする。
- 生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等の部署とどのような連携して支援しているのかを明らかにする。
- 自治会や民生委員、地域内の協力者とどのような連携して支援しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- どのような時に、介護保険事業所などの関係者とどのような連携をして支援しているか検討する。
- どのような時に、生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等の部署とどのような連携をして支援しているか検討する。
- どのような時に、自治会や民生委員、地域内の協力者とどのような連携をして支援しているか検討する。
- 介護保険事業所などの関係者、生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等の部署、自治会や民生委員、地域内の協力者等と適切な連携がとれているかどうか、検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者支援を担当している市の職員の個別支援記録（介護保険事業所、生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等の部署、自治会や民生委員、地域内の協力者などの関係者との連携状況）
- 地域包括支援センターの相談・対応実績（介護保険事業所、生活保護、障がい者支援、権利擁護、消費者被害等の部署、自治会や民生委員、地域内の協力者などの関係者との連携状況）
- 関係機関との連携状況（会議等）
- 関係機関との連携における現状と課題

23. 緊急時の緊急性を判断し、医療機関、施設、保健所、警察等と連携して支援している

【評価の意図】

- 緊急時の緊急性をどのように判断し、医療機関、施設、保健所、警察等とどのような連携して支援しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 緊急時の緊急性をどのように判断しているか検討する。
- 医療機関、施設、保健所、警察等とどのような連携をして支援しているか検討する。
- 緊急時の関係機関との連携状況について検討する。

【評価の根拠】

- 緊急性を要する事例への対応記録
- 高齢者支援を担当している市の職員の個別支援記録（医療機関、施設、保健所、警察等との連携状況）
- 地域包括支援センターの職員と、医療機関、施設、保健所、警察等と個別対応における連携状

況

24. 徘徊高齢者の登録や徘徊時の検索、保護ができるよう、徘徊高齢者を支援するシステムの構築に向けて取り組んでいる

【評価の意図】

- 徘徊高齢者の登録や徘徊時の検索、保護ができるよう、どのような対策を実施しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 徘徊高齢者の支援システムを構築に向けてどのような関係者と連携を図っているか検討する。
- 徘徊高齢者の支援システムを構築に向けて連携を図る必要があるか検討する。
- 徘徊高齢者を支援するシステムがどの程度機能しているか検討する。
- 徘徊高齢者を支援するシステムの現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

- 徘徊高齢者の実態の把握状況
- 徘徊高齢者対策の実施状況、周知状況
- 徘徊高齢者対策の実績

25. 緊急時に高齢者が入所できる施設を確保している

【評価の意図】

- 緊急時に高齢者が入所できる施設をどう確保しているかを明らかにする。

【視点・方法】

- 緊急時に高齢者が入所できる施設をどう確保しているか。入所施設が確保できていない場合、緊急時にどのような関係者とどんな連携をして対応しているのか。その現状と課題について評価する。
- 緊急時に高齢者が入所できる施設の確保に向けての取り組み状況
 - ・やむを得ない事由による措置
 - ・緊急ショートステイ
 - ・民間の有料老人ホーム等

【評価の根拠】

- 緊急時に高齢者が入所できるようにするための施設等との協力（協定）状況
- 緊急時の対応状況（個別記録）
- 緊急時に高齢者が入所できる施設の確保に向けての現状と課題

26. 介護保険事業所・施設、医療機関、保健所、地域の関係者と、災害時の対策について協議している

【評価の意図】

○災害時の対策について、どのような関係者とどのような協議をしているのかを明らかにする。

【視点・方法】

○誰が中心となって介護保険事業所・施設、医療機関、保健所、地域の関係者と、災害時の対策についてどのようなことを協議しているのか検討する。

○災害時の対策についての現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

○災害対策計画（高齢者や要援護者への対策）

○要援護者の名簿等の作成状況

○要援護者のマッピング状況

○高齢者や要援護者の災害時対策として連携している（協定を結んでいる）関係機関・施設との連携状況（連携頻度・内容・課題）

27. 介護予防事業全体の進め方、実施状況、支援内容について、計画通りに実施できたか評価している

【評価の意図】

○介護予防事業の進め方について、どのような計画を立てて実施・評価しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

○介護予防事業全体の年間実施計画は適切であったか検討する。

○介護予防の普及啓発、通所型の介護予防事業での支援について、対象の把握・実施方法は適切であったか検討する。

○介護予防事業の課題について、どのように検討する。

【評価の根拠】

○基本チェックリストの活用状況

○年間計画の評価

○介護予防評価事業の実施状況

・介護予防事業の実績

○個々の介護予防評価事業についての評価内容

・周知方法、実施方法、対象者の状況についての評価結果

○介護予防事業の実施する際に地域包括支援センターとどう連携を図っているか

○介護予防事業の進め方について、誰とどのような検討し実施しているのか。

○介護予防事業の評価について、どのように実施しているのか。改善点はないかどうか評価する。

28. 介護予防の個別支援（訪問・電話等）内容が妥当かどうか評価している

【評価の意図】

○介護予防の個別支援（訪問・電話等）の内容について、どのように評価しているのかを明らか

にする。

【視点・方法】

- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）について、誰とどのような方法で定期的に評価しているか。
- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）の評価方法について改善点はないかどうか検討する。
- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）の評価について、他の専門職、関係者、第三者（学識経験者等）の協力を得ているかどうか検討する。

【評価の根拠】

- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）の実施状況
- ・介護予防の個別支援（訪問・電話等）の実績

29. 個別目標を立てて支援した対象者の意識や生活習慣の変化について評価している

【評価の意図】

- 個別目標を立てて支援した対象者の意識や生活習慣の変化についてどう評価しているのかを明らかにする。
- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）内容の妥当性についてどのように評価しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 個別目標を立てて支援した対象者の意識や生活習慣等の変化を、どのような方法で評価しているか検討する。
- 対象者の意識や生活習慣等の変化の確認方法について改善点はないかどうか検討する。
- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）の結果、対象者の意識や生活習慣等がどう変化したかを、どのような方法で確認しているか検討する。
- 介護予防の個別支援（訪問・電話等）について改善点はないかどうか検討する。

【評価の根拠】

- 介護予防事業参加者、介護予防の個別支援（訪問・電話等）実施者へのアンケート等の実施状況

30. 緊急時や高齢者虐待の対応実績から、職員・関係者の役割や連携方法について整理している

【評価の意図】

- 緊急時の対応実績から、関係者との連携方法についてどのように整理しているのかを明らかにする。
- 高齢者虐待への対応実績から、関係者との連携方法についてどのように整理しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 緊急時に誰がどのような対応をしているか分析し、職員・関係者の役割や連携方法の現状と課題について検討する。
- 高齢者虐待について、誰がどのような対応をしているか分析し、職員・関係者の役割や連携方法の現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

- 緊急時の対応状況
- 緊急時の対応について関係者と協議する場の設定状況
- 緊急時対応マニュアル等の作成状況
- 高齢者虐待への対応状況
- 高齢者虐待対策について関係者と協議する場の設定状況
- 高齢者虐待対策マニュアル等を作成状況

31. 介護予防事業の評価をする際、他の専門職や関係者とともに、第三者（学識経験者等）の協力を得て行っている

【評価の意図】

- 介護予防事業の評価をする際、どのような職種の方と一緒にどのように評価しているのか、また、どのような方の協力を得て評価しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 介護予防事業の評価を行う際、他の専門職、関係者とともに行っているか検討する。
- 介護予防事業の評価について、第三者（学識経験者等）などの協力をどう得るか検討する。
- 介護予防事業について定期的に評価しているか検討する。

【評価の根拠】

- 介護予防事業の評価の実施方法（誰とどのように評価しているか、頻度）
 - ・介護予防事業全体の評価結果
 - ・個々の事業ごとの評価結果
 - ・個別支援の評価結果
- 介護予防事業の評価について、他の専門職、関係者
- 介護予防事業の評価について、第三者（学識経験者等）からの協力状況

32. 介護予防のサポーター養成・育成・自主グループの育成など、介護予防に繋がる活動の活性化に向けて養成・支援している

【評価の意図】

- 介護予防のサポーターやボランティア活動の活性化に向けて、どのような活動を行っているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 介護予防のサポーターやボランティアの養成・支援は、誰がどのような方法で行っているのか

検討する。

- 介護予防のサポーターやボランティアの養成・支援において、改善点はないかどうか検討する。

【評価の根拠】

- 介護予防のサポーターやボランティアの養成・支援の実施状況
- 介護予防のサポーターやボランティア活動の実績

33. 高齢者虐待など処遇困難事例は、関係者とケース検討会等で支援方法を検討している

【評価の意図】

- 高齢者虐待など処遇困難事例の支援方法（高齢者の緊急支援の判断や対応策等）について、どのような方法で検討しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 高齢者虐待など処遇困難事例の相談があった時、どのような関係者と支援方法を検討し支援しているか検討する。
- 高齢者虐待など処遇困難事例への対応が適切だったかどうかを検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者虐待など処遇困難事例等への支援にむけて所内での検討状況
- 高齢者虐待など処遇困難事例等への支援にむけてケース検討会等の開催状況
- 検討された高齢者の緊急支援の判断や対応策等

34. 高齢者支援状況から、高齢者の緊急支援の判断や対応策について関係者と評価している

【評価の意図】

- 高齢者への支援状況から、高齢者の緊急支援の判断や対応策について関係者とどのような評価をしているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 高齢者の緊急支援の判断について、誰がどのような対応をしているか分析し、職員・関係者の役割や連携方法の現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者の緊急支援の判断状況
 - ・高齢者の緊急支援について、定期的に検討する場の有無
 - ・緊急性を評価する際のメンバー構成
 - ・緊急支援の判断基準
- 関係者間で役割分担の共有状況

35. 高齢者支援を担当する者の質の向上に向けて、関係者が共に学ぶ機会（研修、事例検討会等）をつくっている

【評価の意図】

- 高齢者支援を担当する者の質の向上に向けて、関係者が共に学ぶ機会（研修、事例検討会等）をどのように実施しているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 関係者が共に学ぶ機会（研修、事例検討会等）を、どのように企画・運営・実施されているか検討する。
- 高齢者支援を担当する者の質の向上に向けての学ぶ機会は、適切に行われているか検討する。

【評価の根拠】

- 高齢者支援に向けての会議や研修会等の実施状況
 - ・誰が主体となって企画・運営しているのか
 - ・頻度、実施方法（講演・事例検討など）
 - ・学ぶ立場の意見を取り入れた企画・運営となっているか
- 高齢者虐待など処遇困難事例への支援に関する研修会等の実施状況
 - ・関係者の役割を共有できたか

36. 介護予防事業で支援した人の数（参加者数、個別支援者数）が増える

【評価の意図】

- 介護予防事業で支援した人の数（参加者数、個別支援者数）の推移について明らかにする。

【視点・方法】

- 介護予防事業で支援した人の合計人数を集計する。
- 介護予防事業で支援した人数の増減の理由及び課題について検討する。

【評価の根拠】

- 介護予防事業で支援した人の数
 - ・事業ごとの参加者数
 - ・個別支援を実施した者の数

37. 高齢者の生活に役立つ情報を、地域住民に提供をする機会が増えている

【評価の意図】

- 高齢者の生活に役立つ情報を、地域住民に提供をする機会をどのようにつくっているのかを明らかにする。

【視点・方法】

- 高齢者の生活に役立つ情報を、どのように地域住民に提供しているかを検討する。

○地域住民への情報提供についての現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

○高齢者の生活に役立つ情報の周知状況

38. 地域で介護予防や高齢者支援に繋がる活動の数が増える

【評価の意図】

○地域で介護予防に繋がる活動の数の変化について明らかにする。

【視点・方法】

○地域で介護予防に繋がる活動がどの程度行われているか検討する。

○地域で介護予防に繋がる活動が増えるよう、どのような働きかけを行ったか検討する。

○介護予防に繋がる活動における現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

○地域で介護予防に繋がる活動状況の変化

- ・介護予防に繋がる活動の数の変化
- ・介護予防に繋がる活動の種類（内容）の変化
- ・介護予防に繋がる活動の実施頻度

○地域で介護予防に繋がる活動を増やすための取り組み状況

- ・普及啓発内容
- ・人材発掘、育成方法

39. 高齢者に関する相談先が住民や関係者に周知されている

【評価の意図】

○高齢者に関する相談先が住民や関係者にどの程度周知されているのかを明らかにする。

【視点・方法】

○実態調査結果などを分析し、高齢者に関する相談先が住民や関係者にどの程度周知されているかを把握する。

○地域包括支援センターが住民にどの程度周知されているか検討する。

○高齢者に関する相談先の周知における現状と課題について検討する。

【評価の根拠】

○実態調査等による高齢者に関する相談先の周知状況（経年的な分析結果）

○高齢者に関する相談先を周知するための取り組み状況

40. 地域包括ケアの構築に向けて、高齢者支援に向けて連携する関係機関の数や連携回数が増えている

【評価の意図】

○高齢者支援で連携できる関係機関の数や連携回数の変化について明らかにする。

【視点・方法】